

# がんを予防できる HPV ワクチンのこと

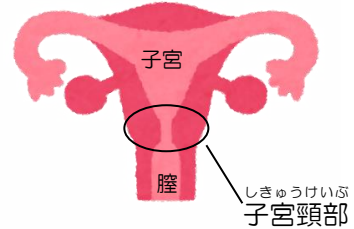
知ってる？

若い女性を中心に、毎年 1.1 万人がかかり、2,900 人が亡くなるガンがあります。

## 『子宮頸がん』

20 歳代から増え始め、30 歳代までに治療で子宮をとったりして妊娠できなくなってしまう人も年間約 1,000 人います。

子宮頸がんの原因の多くは「ヒトパピローマウイルス (HPV)」



HPV はとてもありふれたウイルスで 50~80% の人が一生に一度は感染

50~80%

※主に性的接触で感染します。一生のうちに何度も起こりえます。

HPV には 200 種類以上の型があり 子宮頸がんの 50~70% は 16 型と 18 型が原因

16 型



18 型



※R5.4 月~子宮頸がんの原因の 80~90% を占める 7 種類 (16・18・31・33・45・52・58 型) の感染を予防する 9 価ワクチンも定期接種になりました。



ワクチンを接種することで、HPV と戦う「抗体」が体の中で作られ、HPV が体の中に入ってくるのを防ぎます。

子宮頸がんの予防効果 50~90%

ワクチンの効果は 少なくとも 12 年!

HPV ワクチンは国の定める定期予防接種 「小学 6 年生~高校 1 年生」の女子は無料で接種ができます。(全 2~3 回)



小 6

お勤めは中学 1 年生で 2 価・4 価は 3 回、9 価は 2 回です!



高 1

無料

公費で受けられる HPV ワクチンは 3 種類 <サーバリックス (2 価) >

HPV 16 型と 18 型を防ぎます

<ガーダシル (4 価) >

16 型と 18 型に加え、尖圭コンジローマという性感染症の原因になる 6 型・11 型を含みます。

<シルガード 9 (9 価) > NEW ※R5.4~定期接種化

子宮頸がんの原因の 80~90% を占める 7 種類の型と 6 型・11 型を含みます。

※原則同じ種類のワクチンを規定回数接種です。2 価・4 価の接種後に残りを 9 価で希望する時は医師とよく相談してください。接種間隔はワクチンによって違います。

### キャリアアップ接種

平成 9 年 4 月 2 日~平成 19 年 4 月 1 日生まれの女性 (令和 5 年度)

国が積極的に接種勧奨をしていなかった時期に接種の機会を逃した方は、令和 7 年の 3 月末までの間、接種が可能です。中断した人も残りの回数が無料で接種できます。

# 接種スケジュール

一般的な接種スケジュール



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。  
 ※1 1回目と2回目の接種は、通常5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。  
 ※2-3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。  
 ※4-5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

## <ワクチンの安全性>

世界120カ国以上で公的な予防接種が行われています。カナダ・イギリス・オーストラリアなどの接種率は8割以上！



日本では、2013年4月に定期接種になりましたが、ワクチンとの関係性が不明な症状の報告があり、積極的に接種をお勧めするのを中止していました。

2021年11月、国の会議で安全面で特に心配はないことが確認され、**接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められた**ことで、令和4年の4月から積極的な接種をお勧めすることが決まりました。

日本での接種者は近年徐々に増えています。また、ワクチンの安全性は定期的に国の会議で確認されています。

**更に令和5年4月からはより予防効果の高い9価ワクチンも定期接種となりました。**

## <ワクチンの副反応>

ワクチンの接種後には、多くの人に注射した部位の痛み・腫れ・赤みなどが起こることがあります。まれですが、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

HPVワクチンって安全なの...??

頻度	サーバリックス	ガーダシル	シルガード9
50%以上	注射部位の痛み・赤み・腫れ、疲労	注射部位の痛み	注射部位の痛み
10%以上	痒み、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛、など	注射部位の赤み・腫れ	注射した部位の赤み・腫れ、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	注射した部位の痒み・頭痛、発熱など	浮動性めまい、悪心、下痢、注射部位の痒み、発熱、疲労、内出血など
1%未満	注射部位の知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結、出血、不快感、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血、血腫、倦怠感、硬結など
頻度不明	手足の痛み、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

### <注射後に症状が出た人の報告頻度>

1万人あたり 2・4価：約9人 9価：約8人

### <注射後に重い症状と判断された人の頻度>

1万人あたり 2・4価：約5人 9価：約7人

非常にまれですが、定期予防接種による重い健康被害が起きた場合は、国が救済（医療費や障害年金などを給付）する「予防接種健康被害救済制度」があります。詳しくは下記問い合わせ先にご相談ください。

HPVワクチンの接種は予防接種法に基づいて実施されており、子宮頸がんの予防効果などのメリットが、副反応などのデメリットよりも大きいことを確認して、国が接種をお勧めしています。

接種は強制ではなく、ご本人の意思に基づき受けていただくものです。予防接種を受ける際は、ワクチンの効果とリスクを十分に理解した上で、ご家族と相談し、受けるかどうかご判断ください。また、ワクチンは全てのHPVの感染を予防できるわけではないため、子宮頸がん検診も定期的に受診し、子宮頸がんに対する予防効果を高めることが大切です。

